



## 見附市教育センターだより



〒954-0052

見附市学校町 2-7-9

電話／Fax 0258-62-2343

E-mail [mrisen@mitsuke-ngt.ed.jp](mailto:mrisen@mitsuke-ngt.ed.jp)

令和7年10月23日 NO.7

『小学校親善体育大会』9月26日

### 「あんぱん」から見た「こどもどまんなか」の学校

学校教育課 嘴託指導主事 多田 茂



9月で終了したNHKの「あんぱん」では、後に「アンパンマン」の作者・柳井嵩の妻となる若松のぶが、戦前・戦中に純粋な子どもたちに軍国教育を行っていた様子も描かれました。そして戦後、正義だと思っていた自分の指導を悔いて教師をやめます。嵩は「正義なんか信じちゃいけないんだ。そんなの簡単にひっくり返るんだから。」と言っていました。

この場面を見て、雑誌で読んだ「パターナリズム」という言葉が思い浮かびました。強い立場にある者が、弱い立場にある者の利益のためとして、本人の意志は問わずに介入・干渉・支援することを言います。教師の正義から出てくる「こうあるべき」という信念や「あなたたちのためだから」という指導も一考の価値がありそうです。

令和5年度「児童生徒の問題行動・不登校等に関する調査結果」で教師が回答した不登校の要因の上位は、「学校生活にやる気が出ない」(32.2%)、「不安・抑うつ」(23.1%)、「生活リズムの不調」(23.0%)でした。一方、令和2年度「不登校児童生徒の実態調査」で小学生が回答した不登校の要因の上位は、「先生が合わなかった、怖かった」(29.7%)、「いじめ」(25.2%)、「友達」(21.7%)でした。教師が児童生徒個人に不登校の要因を求めているのに対して、最も多い児童の回答が「先生が合わなかった、怖かった」という現実は、教師の正義に大切な問いを投げかけています。

多くの場合、教師は自分の理想・期待をもとに「子どもをよりよく成長させたい」と熱心に指導しています。ただ、理想や期待に届くことを求める指導は、「足りていない」というマイナスのストロークを与えがちな面もあります。理想や期待に沿うことを求められると苦しい子どももいます。その理想や期待は、子どもの意見や権利を尊重するというより、教師が考える正義から生み出されていることも多く、パターナリズムが見え隠れします。

不登校増加の一因として、学校・学級の息苦しさが指摘されています。私たちの信念や指導にパターナリズムが潜んでいないか見つめ直し、「見附市こども・子育てどまんなか条例」の前文にある、「こどもを独立した権利の主体として尊重し、その意見を受けとめ、大切にし、こどもにとって何が最も良いことなのかを考え、自立に向けて成長を支えていく…」そんな学校・学級を具現化したいものです。

「あんぱん」の若松のぶも、本当はそんな学級を作りたかったんだろうな…。

## 巻頭写真に寄せて 「全力で、走って 跳んで 投げた！」

◇小学校親善体育大会開催の9月26日(金)は、集合時刻には止んでいたが、前夜からの雨が明け方まで残り、グラウンド状態は良くなかった。大会役員の先生方が早朝からグラウンドに集まり、水を吸い取ったり砂を入れたりして整備をし、予定通りに競技は始まった。ただ、開始前の役員打合せ時には長靴の人もいて、大変なグラウンド整備だったことが伺え、役員たちの頑張りに感謝の気持ちで一杯になった。



◇競技が進むにつれ、天気は徐々に回復して日も差して、グラウンド状態も良くなり、子どもたちは80Mハードル走、100M走、800M走、1500M走、走り幅跳び、走り高跳び、ソフトボール投げ、リレーにと、これまでの練習の成果を、存分に発揮した頑張りを見させてくれた。

◇この頑張りは一人ひとりの力によるものであるが、それを生み出すものはクラスメートや先生方、父母や祖父母の大応援があって、より大きな力(頑張り)が生まれていたと私は感じた。(右写真)

◇さて、毎年見せてもらっていて、年々、家族の皆さんの数が増えてきていると感じる。また、子どもの数は減っているが、各校とも全員が出場種目を一生懸命に頑張り、終われば、友だちを真剣に応援をし、競技場全体が熱氣ある良い雰囲気に包まれていた。「見附市の子どもたちに保護者、そして先生方、最高だ！」を強く感じた一日だった。

## コラム

## 『 なくてはならない存在 』

◇このセンターだより担当として、巻頭言を依頼した先生に書いてもらい、原稿をいち早く見せて頂くが、今回も含め、こここのところ、やなせたかしや朝ドラ「あんぱん」の主人公のぶの生き方に、市教委の施策を結びつけた説得力のある文章を書いて頂いて、ありがたく感じている。

アンパンマン
ジャムおじさん
バタコさん・チーズ
おむすびまん
バイキンマン
ドキンちゃん

◇私も『アンパンマン』であるが、平成の初め担任した6年の学級で、グループ毎に出し物をするお楽しみ会をやり、一つのグループが『アンパンマン』の劇をやった。劇は正確ではない。テーマソングに合わせ行進(上のキャラクター役で)をするだけであったが、今もよく覚えている。アンパンマン役は縁日で売っているお面を付けたのみ。バタコさん役がぬいぐるみの犬(チーズ)を引きずって歩き、他の役は首から名札を付けただけだった。その中でおむすびまん役だけが、合羽を着て脚絆に草鞋、頭に菅笠とビシッと決めていた。(家に衣装があり、この子どもの発案でこれをやったのだが)見ていた子どもたちに大うけだった。この劇を思い出しては学級担任時代を懐かしんでいる。さて、私は朝ドラ「あんぱん」の役者ことを書きたい。

◇このドラマが高視聴率だったのは、やなせたかし夫妻の生き方を描いたこと以上に、役者陣が良かったことだと思う。主人公役の今田美桜も北村匠海も良かったし、のぶ(今田美桜)の家族も良かった。また、後半に登場した作曲家役のミセスの大森元貴も最高に良かった。その中で私が触れたいのは戦後、のぶや嵩(北村匠海)が勤めた高知新報で、上司(東海林明)役をやったアットローな雰囲気が魅力的な津田健次郎である。彼の登場で物語は変わった。というより、彼の登場で物語が本番に入ったと感じた。終盤、嵩が漫画を描けない中、病院を抜け出し、嵩に漫画(アンパンマン)を描く言葉かけをしたのも彼である。この役者なしで、朝ドラ「あんぱん」の物語はできなかつたと思う。

◇学校を考えてみた。学校は様々な職員がいる。皆で子どもたちの笑顔のために頑張っているが、東海林的な職員がいる学校は、活気に溢れているように感じている。(c)

## 4時から夢塾 「全校体制で進めるデジタル・シティズンシップ教育」

第11回を10月7日(火)に、五十嵐健太先生(見附小学校教諭)から、表題のテーマで、ご指導を頂いた。簡単に説明をする。

### 1. はじめに (今後の動向 -Next Steps )

○デジタル学習基盤を前提とした学び方(△使うか使わないか)

⇒端末をどう使い、情報活用能力をどう高めるかだ。

### 2. なぜ、デジタル・シティズンシップ教育なのか？



五十嵐健太先生

○デジタル技術の利用を通じて、社会に積極的に関与し、参加する能力を育成する。

○優れたデジタル市民になるために必要な能力を、身に付けることを目的とした教育。

○責任のリング「自分自身→周りの人→世界(見知らぬ誰か)」…世界で求められるように。

#### ◇求められる背景 -Backgrounds

○主体的・対話的な学び。個別最適な学び。協働的な学びの授業。

そのために ⇒『ICT 端末が必須の環境』

#### ◇当校の実態 -State of our school

○終わりを決めずに長時間使う。自分の情報が記録されることを

知らずに使う。情報の正しさを判断せずに使う。

⇒デジタル社会における情報の付き合い方を正しく理解してほしい。

### 3. これから目指す姿 -Goals for Students

○デジタル・シティズンシップで育てる力…5領域6項目

1 健康と安全 2 ルール・マナー(①ネットいじめ②デジタル足跡)

3 一人ひとりの情報 4 人との関わり 5 情報との関わり

○小学校卒業時の段階をイメージし、最終的に目指す姿を示している。

### 4. 取組の実際 -Actual Approaches



○タブレットを使う目的…学びを深めるために使う。生活を豊かにするために使う。

○信頼できるところから情報を集めよう。その情報は本当？

○デジタル・シティズンシップ教育を推進…共に考えていくことが大事。

### 5. まとめ (今後の動向 -Next Steps 中教審「論点整理」で)

○情報技術の活用。適切な取り扱い。特性の理解と相まって培うこと。

#### <参加者の声> ◇デジタル・シティズンシップの育成を小中学校が連携



して指導できると良い。中学生もまだまだなので、同じ内容を繰り返し学びたい。

◇「デジタル・シティズンシップ教育とは何か」に初めて触れ、理解することができた。

今の世の中を生きていく子どもたちを育てるためと、そして大人も進化する情報社会で、生き方を学ぶために必須だと思った。

◇デジタル・シティズンシップと情報モラルとの対比が、とても分かり易かった。主体性と情報の発信者となることを意識して指導をしたい。

◇デジタル・シティズンシップがデジタル技術の利用を通して、社会に積極的に関与して、参加する能力のことだと分かった。モラルや使い方も含め、どう活用していくかを子どもたちに考えさせたい。



## 4時から夢塾 「算数科授業づくりのポイント」を学ぶ

第12回は10月8日(水)に、稻葉謙太郎先生(附属長岡小学校教諭)から、上記のテーマでご指導を頂いた。具体的には、今町小学校5年2組での「分数と小数・整数の関係を見つけよう」の示範授業とミニ講座で教えて頂いた。簡単に説明をする。



稻葉 謙太郎 先生

### 1 授業の様子「分数と小数・整数」 本時 6/7

- (1) 小数を分数で表す( $0.5 \rightarrow 0.33\cdots \rightarrow 0.11\cdots \rightarrow$ を確認後、 $0.44\cdots$ を提示)

T1:どの小数を使うと、分数で表せそうですか？

◇  $0.44\cdots$ を分数で表すために、使う小数を予想する場の設定

- (2) ◎ どちらの方法でも  $0.44\cdots$ を分数で表すことができそうか。

T2:  $0.11\cdots$ や  $0.44\cdots$ を使って分数の表し方を考えてみましょう。

◇  $0.44\cdots$ を分数で表す方法について、話し合う活動の組織

- (3) T3:  $0.5$ 、 $0.33\cdots$ 、 $0.11\cdots$ 、 $0.44\cdots$ を使って小数をつくり、分数で表せるのかを考えてみましょう。

◇ 割り切れない小数を、分数で表すことができるのかを考える場の設定

⇒  $1/9(0.11\cdots)$ を単位とすれば、分数で表すことができる。



### 2 ミニ講座 「算数科授業づくりのポイント」

- (1) 本時の教材で大切にしたいこと

○無限小数と等しい大きさの分数を使いながら分数の表し方を考える。

○分数と小数は、基準や単位を揃えると等しい大きさを見つけられる。

○深い学びの姿…二通りの共通点を見付け、問題を解くポイントをまとめる。

- (2) 学習問題(◎)は子どもが主体的・対話的で深い学びをするきっかけ。

○ ◎を引き出すためにはズレが大事。

・導入場面でズレを引き出すこと…子どもが主体的に学ぶ授業に繋がる。

・ズレ(友だちとの考え、予想、感覚、既習事項)を生かして◎をつくる。



- (3) 式や図や言葉を関連付けて考える。⇒子どもが考える場をつくる。

- (4)まとめ 「算数科授業づくりのポイント」

○導入場面でズレを引き出す。

○式や図や言葉を関連付けて、子どもが考える場をつくる。

○子どもの考えの共通点・相違点を基に、全体共有を進めていく。



**<参加者の声>** ・子どもが解決したい課題を明らかにして、◎を設定することは、私

も困難としているところである。ぜひ参考にして授業を行っていきたい。

・稻葉先生の子どもたちと一緒に悩み、考える姿勢がとても素晴らしいと思った。

・学び合いの場面で、発言した子どもへの称賛や望ましい声かけは学級経営に繋がる。

・つぶやきや発言を拾い上げ、子どもの考えを大切にしていた姿が大変印象的だった。

・割り切れない数について考えるのは、大変高度な内容だと思った。それが“何個分”的の考えができるのは、子どもたちにとって素晴らしい学びの場になったと思った。

・◎の作り方やズレを生む問い合わせの出し方等、意識していきたいことをたくさん学べた。

・学級全体の理解を引き上げる言葉かけの技をいくつも見せて頂き、学びが多くかった。

・授業を通して、集団をつくるという稻葉先生の立ち振る舞いに学ばせてもらった。



10月

# 科学教育部



「千手グリティ(テンセグリティ構造)」  
(当センター 佐藤嘱託指導主事 作)

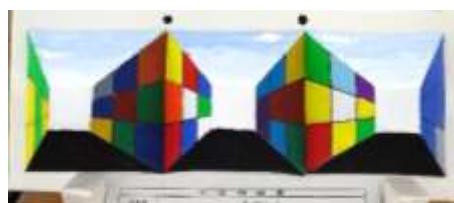
## (11,12月の研修案内)

1	単元別研修会 【小5 もののとけ方】	11月28日(金) 15:40～16:40	単元の進め方のポイントを紹介し、溶解度に関する教材の作成や実習をします。
---	-----------------------	--------------------------	--------------------------------------

\*研修会の申込について、新たな参加希望がありましたら、見附市教育センター科学教育部まで電話またはメールで申し込みをしてください。

## (見附市児童生徒夏休み作品展)

9月27日（土）～28日（日）の2日間、「まちの駅 ネーブルみつけ」にて、見附市児童生徒夏休み作品展を開催しました。会場には、児童生徒による自由研究や工作など、多彩で工夫に富んだ力作が並びました。どの作品も創意工夫やユーモアが見られ、来場者の目を引いていました。夏休みだからこそ、じっくりと考え、楽しみながら製作した様子が伝わる作品ばかりでした。来年の夏休みも、自分で考え、創造する楽しさを存分に味わってほしいと思います。



## (見附市児童生徒科学研究発表会)

10月2日（木）に、中央公民館で第61回見附市児童生徒科学研究発表会を開催しました。児童・生徒たちは、日常生活の中から疑問を見つけ出したり、昨年度の研究を改善したりして、理科の授業で育んだ科学的な考え方をフル活用して、科学研究に取り組みました。ご家族や先生方の助言のおかげで、研究内容や発表の質は年々向上しています。子どもたちの学びを支えてくださった皆様に、心より感謝申し上げます。



# 科学の公園

## 単元別研修会 中1 「光の性質」

9月5日(金)に実施した単元別研修会 中1「光の性質」では、光の単元のポイントを確認したり、単元で活用できる教材やICTを紹介しました。その後、生徒数分の教材を作成しました。参加者からは「すぐに使える教材を使う分(必要な分)準備していただけるので、とてもありがとうございます。」「光に関する現象と作図の説明をどう結びつけるか悩んでいたので、参考になりました。」という感想を頂きました。



凸レンズとカラー フィルムを用いた  
発展課題

## 単元別研修会 小6 「大地のつくりと変化」

9月19日(金)に実施した単元別研修会 小6「大地のつくりと変化」では、単元の流れや実験のポイントを確認したり、市内で観察できる露頭を紹介しました。その後、この単元で活用できる教材を作製しました。参加者からは「地層のでき方について様々な堆積実験を教えてもらえてよかったです。子どもたちも喜んで取り組めそうで、授業に取り入れてみたい。」「豆知識をいくつも教えていただけるので、毎回自分の理科の「引き出し」が増えている感じがします。」という感想を頂きました。



試験管に土砂を入れて、堆積の様子  
を観察する参加者

## 単元別研修会 生活「秋のおもちゃづくり」

10月10日(金)に実施した単元別研修会 生活「秋のおもちゃづくり」では、単元の流れや生活科と理科のつながりを確認し、この単元で活用できる教材を紹介しました。参加者からは「おもちゃのレパートリーや進め方に悩んでいたため、参加しました。子どもたちへの指導方法だけでなく、豆知識なども知ることができました。生活科が理科へつながっていく感覚があまりなかったのですが、今回の研修を通して、『比べる・振り返って再度実践する大切さ』を知り、低学年のうちから身につけさせたいと思いました。」という感想を頂きました。



貸し出し可能な「木の実穴あけ機」  
(2台あります)

## 細菌のはたらきをもっと探究～ヨーグルト作り～

最近、中学校3年生の理科で細菌類について学習する際、多くの生徒が「細菌=悪い生物」と捉えていたため、身近で有用な細菌類の働きを学ぶ目的で「ヨーグルト作り」を行いました。牛乳にヨーグルトを少量加え、常温で発酵させることで乳酸菌が働き、牛乳がヨーグルトになります。

生徒たちは「多く作る」「濃く作る」などの目的を設定し、牛乳や種菌の量、温度や日数などの条件を制御して実験しました。冷蔵では乳酸菌が働かなかったり、長時間放置すると菌類(カビ)が増えたりすることも経験しつつ、最後にはしっかりとヨーグルトができたことで、細菌類にも有益なものがあることを実感していました。



数珠のような乳酸菌



完成したヨーグルト